

TRANSITION TO HEALTH (095)

“ 新型コロナウイルス感染 ⑳ ”

～ “ 『コロナ・スキャンダル (コロナ詐欺)』 裁判 ” の行方 ① ～

はじめに

『新型コロナワクチン(コミナティ筋注、ファイザー株式会社) 接種後に死亡として報告された事例の一覧 (令和3年2月17日から令和3年6月27日までの報告分) 』によると、556名の日本人がワクチン接種後に死亡したと報告されていた。“約5万に1人”がワクチン接種後に死亡したことになる(丸山算出)。

これらの死亡が、自然死・老衰ならば、あるいは、持病・基礎疾患の自然経過ならば、即ち、ワクチン接種との因果関係が無いのであるならば、グラフには通常、ピークは無く、ほぼ平均化されているはずであるが、実際には、右のグラフに見るように、明らかに接種後一週間以内に集中し、翌日・2日後が際立っている。

免疫力の低下している超高齢者や重い持病・基礎疾患を有する高齢者などでは、ワクチンの添加物・アジュバントの毒性・有害性には耐えられず、寿命を縮めてしまう・死期を早めてしまうのであろう(丸山の見解)。

新型コロナウイルス・COVID-19は想像上・架空のウイルス・感染症??

◆ 新型コロナウイルス・COVID-19の存在を立証できない世界の厚生当局

世界の諜報機関・結社(イタリアP3F、イギリスMIG、アジア結社、ロシアFSBなど)が、WHO、CDC、その他日本を含む60カ国以上の厚生当局に“新型コロナウイルスの情報開示要請”を突き付けたところ、全ての機関・当局からの回答はすべて『新型コロナウイルスが実在することを立証できない』というものであったという。日本の厚生省の場合も。

◆ 7つの大学研究室で1,500検体中COVID-19は1件もなかった・・・新型コロナは架空のウイルス?

一流大学のカリフォルニア大学、スタンフォード大学、コーネル大学の7つの研究室で、PCR検査陽性患者の検体1,500検体を精査したが、COVID-19は1検体も存在しなかったという。殆どはインフルエンザAで、ごく一部がBであった。その後、テレク・クナウス博士らは、COVID-19のサンプルをCDCに要求したが、CDCは「サンプルが無く提供できない」と回答。研究者たちは、「COVID-19は想像上かつ架空のものである」と結論付けた。インフルエンザは『COVID-19』と呼ばれ、225,000人の死亡(当時)のほとんどは心臓病・癌・糖尿病・肺気腫などの基礎疾患によるものであった。免疫弱者の患者たちは免疫力を更に弱めてしまうインフルエンザに罹ってしまい、死んでいったのであった。「この(新型コロナ)ウイルスは架空のものです」と彼らは言う。検査をした研究者たちは『COVID-19詐欺』としてCDCを告訴したのであった。

◆ 告訴されたCDCは「測定可能な新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)を持っていない」ことを認めた

研究者たちに告訴されたCDCは、2020年7月13日、「測定可能なCOVID-19ウイルスを持っていない」と認めた。新型コロナウイルスを実証できないにもかかわらず、恥知らずにもPCR検査を誤乱用してきたCDCは「ウイルスRNAの検出は、感染性ウイルスの存在を実証できないばかりか、臨床症状の原因物質であるとも言えない。」さらには「PCR検査は、他の細菌またはウイルス病原体によって引き起こされる他の疾患を排除することはできない。」と認めた。「PCR検査陽性死亡者の94%は、ウイルス感染が原因ではなく、抱えていた重篤な基礎疾患(持病)が本当の死亡原因である」とも認めた。



◆ 死後に PCR 検査を実施し、陽性者全員を「コロナ死」として水増し報告

アメリカの病院では、死亡した患者全員に PCR 検査を実施し、陽性者は全員、死因が呼吸器疾患でなくても『コロナ死』として報告するように指導され、政府から補助金・給付金が支給されていた事実が判明した。イタリアでも同様に、イタリア保健省参与のワルテル・リッチアルディ教授は「コロナ死の88%はコロナウイルスが原因ではなかった。」と証言していた。

◆ やはり、新型コロナウイルスは「別のインフルエンザウイルス株」なのか？

COVID-19 ウイルスのゲノムに関する4つの中国の研究論文では、ウイルスを単離・精製していなかった。4つの論文はすべて、わずか37~40塩基対の長さのRNAの小片のみを記述しているだけである。ウイルスゲノムは通常、30,000~40,000塩基対を有するのだが、未だにウイルスを完全に単離して精製した大学・研究所は現れていない。論文を作成した中国グループ・武漢の研究所は、論文発表のわずか10日ほどで閉鎖され、論文に記載されたゲノム配列が、NCBI（米国国立生物工学センター）に登録されているだけで、ウイルス自体は存在せず、データがあるだけ。やはり、スタンフォード大学などの7つの研究室の研究者が言うように、私たちが恐れているのは、例年と同じ、『別のインフルエンザ株』なのであるか？

◆ コロナウイルスの存在証拠提供に対する265,000ドルの報奨金提示に誰も反応せず

2021年初め、ドイツの或る科学チームと独立基金が、新型コロナウイルスが存在するという議論の余地のない証拠を提供した科学者に対して、少なくとも265,000ドルの報奨金を提示したが、未だに証拠を提供できる科学者は現れていない。

◆ いわゆる「SARS-CoV-2」が「COVID-19」と呼ばれる病気を引き起こすことを実証することは不可能

著名な科学者である Tom Cowan 博士、Andrew Kaufman 博士、Sally Fallon Morell 博士らは、「一度も発見されていないウイルスの遺伝子配列は分かるわけがなく、存在が実証されていないウイルスの『変異(突然変異)』を確認することもできない。『SARS-CoV-2』が『COVID-19』と呼ばれる病気を引き起こすことを証明することは不可能である」と言っていた。

『新型コロナ詐欺』に関する裁判始まる（ドイツ Nuremberg 市）2021年5月～

2020年7月10日に設立されたドイツの『the German Corona Investigative Committee（コロナ調査委員会）』の4人の弁護士メンバーの1人 Reiner Fuellmich（ライネ・フェルミッヒ）氏（写真：カリフォルニア州弁護士資格取得後26年）によると、今回の“Corona Scandal”を“Corona Scandal”と改称し、その責任者を刑事訴追し、民事上の賠償請求を求める訴訟を起こさなければいけない。責任者らは、人類を欺き、人類を騙し（defraud humanity）、不正な目的で人類を操ろうとする（to attempt to manipulate us with their corrupt agendas）史上最大の不正行為を行っているとして訴訟の準備を進めていた。そして2021年5月、Fuellmich氏をはじめとするコロナ調査委員会の4人の弁護士、国際ジャーナリスト連盟に加盟しているジャーナリストなど約1,000名、ノーベル生理学・医学賞を受賞した科学者をはじめ、一流の大学教授・研究者など約10,000名で集団訴訟を起こしたのである。「存在自体が立証されていない“新型コロナウイルス”のために、安全性が確認されていないワクチンを大勢の地球人（民間人）に押し付ける（接種する）ことなどあってはならない」との意見で一致し、今回のWHO・CDC等の一連の行為・対策を「国際刑法第7条」に定義されている『人道に対する実際の犯罪』として認定して告訴したのである。裁判の証拠資料には、ノーベル生理学・医学賞を受賞した医学博士など数多くの専門家による調査結果や証言が記録されている（Fuellmich氏）。



訴えられているのは、診断に使ってはいけない新型コロナ用PCR検査法を開発した（今では悪名高き？）ベルリンのウイルス学者：Drosten氏、ドイツ版CDCともいえるロベルト・コッホ研究所（RKI）の所長（獣医師）：Wieler氏、そして、もちろん第8代WHO事務局長のTedros氏である。

おわりに

いよいよ、今月23日の夜、『2020 TOKYO』オリンピックの開会式である。NHK・民放TV各局は、ノーベル賞

受賞科学者や一流の大学教授・研究者・専門家の報告・警告を軽視し、『デマ』だと報じている。「高齢者にワクチンの効果が現れている(?)」とも報じている。実は、これも“数字マジック”である。ワクチンを接種するか否かは、ご自身で決めてください。（次号につづく）

